

## 事業所名 グループホーム小町

## 運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 3年 4月 23日(金) 時 分～ 時 分		
参加者		議題
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	3名	3 利用者状況報告
市職員	1名	4 その他(身体拘束適正化検討委員会)
地域包括支援センター職員	1名	5 次回会議開催予定日
事業所	1名	
会議録		
<p>☆4/23 開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催を行いました。</p> <p>☆新型コロナウイルス感染拡大防止対策について 愛知県では、高齢者施設などの職員を対象に定期的な PCR 検査を行うことになりました。グループホーム小町では、今回 3 月中旬に職員全員に PCR 検査を行い全員陰性だったことをご報告いたします。今後も検査した際にはご報告させていただきます。</p> <p>コロナ禍の収束はいまだ見通せない状況ですが、引き続き面会時のマスク着用や施設に入る際の手の消毒、しばらくは利用者様の不要不急の外出は避け感染を防ぎたいと思います。</p> <p>春もすぐそこですが、意外とまだ寒い日もあり、油断して風邪をひかないように衣替えも慎重に行い、健康管理に努めています。</p> <p>・中止に伴い意見照会を行いました。 意見照会(瀬戸市役所高齢福祉課 1名 家族様 0名 民生委員 1名 地域包括支援事業 1名 地域住民代表 2名 ) →①徘徊をしたり、不穏な状態になる入居者様に対して、職員の皆さんは日頃からどのような点に気をつけて対応するよう心掛けてみえますか。 また、そのような入居者様がいる場合、職員間での情報共有で工夫されている事や注意している事等がありましたら、教えてください。 ②ワクチン接種が無事終わるといいですね。 ③記名のみ ④特にありません。</p>		

⑤今回の「徘徊の原因のアセスメントと対策」とても参考になりました。近隣に住んでいる方で同じ道を往復されている姿を見かけます。心理面からのアプローチ「こんにちは、寒いから気を付けてくださいね」など自分としてはほんのわずかな一瞬しか関われないのですが、見かけた時は必ず止まり声をかけるようにしています。

- ・ご意見に対する返答

→①「安心して落ち着いていられる時間を増やすことができること」を目標に、本人の理解やペースに合わせた声かけ、接し方を行うなど対応しています。

また、以前できていたことができなくなっても「笑顔で優しく声をかけること」を心掛けています。

グループホーム小町では、随時利用者様の困りごとについて会議で検討しています。話し合った内容について、議事録を作成し、毎日の申し送りで伝える時間を持ち、職員間の情報共有に努めています。

## 1. 行事報告について

### 2月

- ・節分の豆まき

→2/15、少し遅くなりましたが、1年の無病息災を願いながら皆様で豆まきを行い、昼食に利用者さんと一緒に恵方巻を手作りしました。また、鬼に仮装した職員に豆をまいて季節の行事を感じていただきました。

- ・お誕生日会

→2/3、利用者様2名のお誕生日をお祝いしました。

- ・訪問理美容

→2月、愛知県で緊急事態宣言が延長されたため訪問を延期しています。

### 3月

- ・訪問理美容

→3月1日、訪問理美容がありました。昨年の11月振りにさっぱりと切っていただきました。

- ・桃の節句

→3月3日の「桃の節句」は、皆様の健康を願い小町でもひな祭りを行いました。お昼にお祝いのごちそうとして、見た目も春らしくて華やかな「雛ちらし寿司」を、おやつには手作りおはぎや雛あられ、甘酒をいただきました。またひな祭りにぴったりの着物を着て記念の写真撮影を行い楽しみました。

- ・行事食

→行事食として、3月14日、ホワイトデーにチキンライスのクリームソースかけ、3月20日、秋分の日にタケノコごはんをいただきました。

## 4月

### ・お花見（小町テラスにて）

→4月2日のお昼、小町テラスにてお花見を行いました。満開の桜を見上げて海鮮ちらし寿司を食べておしゃべりを楽しみました。また、おやつには手作り桜餅をいただき春の訪れを喜びました。海鮮ちらし寿司や桜餅は皆さんにお手伝いしていただきました。

### ・お誕生日会

→4月16日、利用者様のお誕生日をお祝いしておやつにケーキをいただきました。昼食に希望でお寿司弁当を用意して外食気分を味わっていただきました。

最近、日中はむし暑くなってきました。まだ体が暑さに慣れていないため、こまめな水分補給と室温調節を行い熱中症予防に努めていきます。しばらくは新型コロナウイルスの影響で行事での食事や買い物等の外出ができるかわかりませんが、季節の行事で楽しんでいただけたらと思います。

## 2. 今後の行事予定

5/5 端午の節句

5/9 母の日

5/中旬 避難訓練

## 3. 利用者状況報告

・利用者様 9名利用（女性9名）

・平均年齢 87歳 平均要介護度 2.3

2021.5.1 現在

・新規利用者様が2021.4下旬に入所されました。

80歳代女性 要介護度2

## 4. その他

身体拘束適正化検討委員会より

「徘徊」

### ・身体拘束を行う理由

身体拘束を行う主な理由は、利用者の事故の防止です。

事故になりうる具体的な例として、治療用のチューブを無理やり自分で引き抜いてしまうことや、1人で徘徊することで転倒してしまう、歩けないのに車椅子から立ち上がろうとして転倒してしまう、ベッドから1人で降りようとして落ちてしまう。

このように高齢者の場合、低い場所から落ちることや歩いていて転倒したなど、ちょっとしたことでも骨折など重傷になってしまい、またそこから寝たきりなどの状態になってしまう可能性があるためそれを防ぐ目的から拘束という手段が必要とされていました。

それでは、身体拘束を減らしたり、なくしたりするためにはどのようにしていけば良いのでしょうか？

利用者1人ひとりの認知症の症状・周辺症状の改善に努める方向や事故にならないように目を配ること、職員が身体拘束をしないという意識と緊張感をもつことなど、身体拘束に変わる対応と職員の意識の向上が何より求められています。

今回は、徘徊をテーマに説明していきます。

### ・徘徊の原因のアセスメントと対策

徘徊には原因や実際の目的が分かるものとそうでないものがあります。

わからないものは、山があるから登るように廊下や空間があるから歩く。いわばその人の活動として徘徊していると考え、できるだけ安全に歩いてもらい休息を入れることに配慮することが大切です。

原因や目的が考えられる時には、それらに対応していくことが大切です。比較的理解しやすいのは、場所や状況が分からず迷子になったり、家族を探したり、食べ物を探している徘徊です。理解しにくいのが、不快感や混乱、不安や焦りを抱えて徘徊している場合でしょう。いずれであっても、まずアセスメントをして、できるだけ利用者の状況を理解するようにして、不快や不安、混乱を軽減・緩和する働きかけをします。そうすることで利用者の落ち着きが得られ、徘徊の頻度や徘徊に伴う転倒などの危険性が低下します。

問題症状の原因をどうアセスメントしたらよいのでしょうか

#### ① 身体面からのアプローチ

徘徊が身体的な疾患・症状から始まるケースも多くあります。認知症に徘徊はつきものと決めつけしないで、観察して病気などの原因が分かればその対策を取ります。

#### ② 心理面からのアプローチ

認知症の利用者も孤独や寂しさ、不安や屈辱などいろんなことを感じています。それを上手く表現できなかったり現実に行動するときにとんちんかんな、現実

とミスマッチな言動になってしまう、その一つの表現が徘徊のことがあります。

③ 徘徊がスタッフにより提供されるサービスへの反応として始まることも多くあります。基本的ケア、清潔や排泄ケアの不足はないか、食事や水分の補給ができているか。日中の活動量、活動と休息のバランスなどは適切か考えます。

・危険防止対策と紛争防止策

原因や目的を把握し、利用者の状況を理解し、不快・不安に対するケアを行うことで事故のリスクが軽減されます。

・まとめ

高齢者でも認知症でも同じ「人」であることに変わりはありません。「どうせわからないから」、「管理しやすいから」といった理由で安易に縛ったり固定したり、閉じ込めてよいものではありません。身体拘束の検討を要している方のケアは苦労も大変多いと思いますが、人としての尊厳を守って介護していくことが、本当の意味で人を介護するということなのではないでしょうか。

そして身体拘束に頼った介護を日常的に行ってしまうことで、職員はそれ以外にどうしたら良いのか対応に混乱し、何か起こった際には身体拘束しなかったからこうなったという考えになってしまいます。

そうならないためには、各施設で身体拘束についてきちんと理解し、職員1人ひとりに意見や考えをだしてもらいながら改善していくことが大切です。

(別紙参考資料参照)

5. 次回会議開催予定日

2021年6月25日(金) 14:00 開催予定